

2020 年度事業報告書

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の脅威にさらされ続けた一年であった。特に職員は、専門職として一般以上の自己管理を求められたうえ、細心の注意と厳戒態勢で活動に臨まねばならなかった。さいわいにも関係者に感染が発生することなく年度末を迎えることができたが、危機的な状況は新年度を迎えても継続している。

事業所としても常に重圧のもとに置かれたが、危機感をもって対策に当たった。マスクや消毒液などは年度前半入手に苦慮したが、その後は国、京都府、京丹波町、「24 時間テレビ」等からの支援に加え、利用者・家族からの協力もあり、後半には必要量を確保することができた。また、国の「緊急包括支援事業」の助成を得てマスク・使い捨て手袋・飛沫対策用アクリル板・空気清浄機等を購入して事業場に配置した。

「緊急事態宣言」下ではヘルパー会議等の会合も制約を受けたが、間隙をぬって勉強会や話し合いを開催し、厚生労働省の「予防対策動画」を利用したり、民間団体作成の「対策ハンドブック」を全員に配布するなど、職員間での知識と情報の共有に努めた。「対策ハンドブック」は他団体へも提供し、事業所間での連携も図った。

職員の労苦に対しては、国の介護慰労金事業により対象職員(38 人)に 1 人当たり 5 万円を給付したが、慰労の場を設けることなどは避けねばならなかった。また、事業計画に掲げていた「地域に開かれたイベント開催」は見送り、カフェ事業も年間を通じて停止せざるをえなかった。通常総会も「書面決議」による開催とした。

カフェ事業以外の活動実績は、一時的に感染を恐れた利用控えがあったものの、最終的には前年度と同程度の水準に達し、居宅介護支援と通所介護は前年度を上回った。訪問介護は減少したが、町内の他施設が感染により通所介護を一時停止した際には振替依頼が増加し、在宅介護における訪問介護の重要性を再確認した。

なお、第3回理事会において荒牧敦子理事長の後任として山下幾雄理事が選任され、2021 年 4 月 1 日から就任することとなった。

その他の事項については次の通りであった。

◆ 会員

会員数は次表のとおりで、年度末時点で正会員 65 人のうち 45 人が役員及び職員で、それ以外が 20 人となっている

	20 年度末	19 年度末
正 会 員	65 人	67 人
協 力 会 員	15 人	15 人
賛 助 会 員	12 社	12 社

◆ 機関会議

①通常総会

日時：2020年5月22日(金)9時30分～10時

場所：特定非営利活動法人クローバー・サービス事務所 2F 会議室

出席：正会員 68 人中 58 人出席(本人出席 5 人、書面表決 53 人)

議題 第 1 号議案 2019 年度事業報告承認の件

第 2 号議案 2019 年度活動決算承認の件

第 3 号議案 2020 年度事業計画承認の件

第 4 号議案 2020 年度活動予算承認の件

第 5 号議案 理事 7 名選任の件

第 6 号議案 監事 2 名専任の件

新型コロナウイルス感染拡大防止のため最小人数での開催とし多くは書面評決による出席となった。

②理事会

年間 3 回開催し、それぞれの時点での活動状況や課題を協議した。

第 1 回 2020 年 5 月 9 日(土) 通常総会提出議案について

第 2 回 2020 年 10 月 14 日(水) 活動の現状報告について

第 3 回 2021 年 2 月 18 日(月) 理事長交代及び決算見込と賞与の支給について

◆職員

①常勤職員

常勤職員は1名増(2名採用・1名退職)となり11名、事務所8人(事務局長1人、ヘルパー部門4人、ケアマネジャー3人)、デイサービス3人を基本の配置とした。

デイサービス担当として5月に1名、3月にヘルパー部門1名(いずれも介護福祉士)を採用した。

②非常勤職員

配置は訪問介護 18 人、デイサービス 14 人、事務 2 人を基本とし必要に応じて兼務した。

デイサービス調理員として10月に1名、介護職員として12月に1名採用し、訪問介護員が12月に1名、年度末に2名退職、デイサービス調理員が1名年度末に退職した。

◆研修

①内部研修

職員による研修委員会を組織し、職員自身の企画・運営によりヘルパー会議において次表の研修を実施した。

時期	テーマ
7 月	虐待防止・身体拘束排除

8月	感染症予防
9月	認知症
10月	法令遵守・プライバシー保護
11月	緊急時の対応
1月	介護技術・接遇

②外部研修・会議出席等

介護技術や知識、事業所運営に関して関係機関や民間が開催する研修や会議に担当者や希望者を参加させた。新型コロナウイルス感染予防のためオンライン研修にも参加した。主なものは次表のとおりである。

	テーマ	主催
8月	京都府介護支援専門員専門研修・実務者更新研修(8月～10月全5回)	京都府介護支援専門員会
	令和2年度京都丹波オレンジロードつなげ隊企画会議	南丹地域包括ケア推進ネット
9月	第8期介護保険事業計画策定に係る意見交換	京丹波町
10月	令和2年度第1回京都認知症カフェセミナー(zoom)	京都地域包括ケア推進機構
11月	認知症の人とその家族を支えるためのケアマネージャー育成事業(zoom)(11月～12月・全3回)	京都府介護支援専門員会
	認知症カフェ運営者・スタッフ研修(zoom)	宇治市福祉サービス公社
	令和2年度京都丹波オレンジロードつなげ隊企画会議	南丹地域包括ケア推進ネット
12月	認知症カフェ運営者・スタッフ研修(zoom)	宇治市福祉サービス公社
1月	認知症カフェ運営者・スタッフ研修(zoom)	宇治市福祉サービス公社
	座位から考える高齢者の日常生活支援(zoom)	南丹地域リハビリテーション支援センター
2月	認知症カフェ運営者・スタッフ研修(zoom)	宇治市福祉サービス公社
3月	認知症カフェ運営者・スタッフ研修(zoom)	宇治市福祉サービス公社
	社会福祉専門セミナー・アサーティブ研修(zoom)	京都府社協
	わたしと社会福祉(zoom)	京都府社協
毎月	地域ケア会議	京丹波町

◆広報活動・その他

①情報発信

広報誌『クローバーだより』を毎月約400部発行し、会員、全利用者、関係機関等に配布し、ホームページにも掲載した。

②おせち料理配布

NPO 法人まごころサービスあい愛と連携し、同法人作製のおせち料理11食を希望者に届けた。

◆ 「助け合い」事業

①ヘルパー活動

実際にサービスを利用したのは 13 人であった、多くは介護保険の限度額超過分の振り替えが多数だが、大掃除、除草作業など介護保険では対応できない事をカバーする本来の助け合いとしての利用もあった。

京丹波町高齢者日常生活支援事業による住民税非課税世帯の利用者に対する利用料減免は 11 人、減免額合計は 65,000 円であった。

〔利用実績〕（※利用者数の「合計」は、月々の利用者実数を年間合計したもの、以下各表とも同様）

	月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	4.7	8	3	56	56	100%
回数(回)	61.5	66	52	738	885	83.4%
時間数	64.26	74.50	54.0	771.16	968.65	79.6%

②認知症支援

2020 年 3 月より新型コロナウイルス感染拡大予防のためクローバー・カフェは休止しており、再開の目途は立たないままであるが、再開の為に認知症カフェ運営者・スタッフ研修に参加し、コロナ禍の中の開催方法を模索した。

〔利用実績〕

なし

◆ 外出支援事業（福祉有償運送）

新型コロナウイルスの影響か、外出控えもあり前年度より利用者が減少したが、月によっては前年を超える利用の時もあった。

行先は主に町内であったが、京都中部総合医療センター、明治国際医療大学附属病院へも多く移送し、綾部市民病院、福知山市立病院、亀岡市立病院等への移送依頼にも対応した。

運転員全員が兼務であり、人手不足の中、理事にも運転員として対応をお願いすることもしばしばあった。

利用人数・走行距離共に減少したが 2020 年度より京丹波町により利用料金の見直しが行われたため収益については前年を上回る結果となったが、かかる経費を賄うことはできないのが現状ではあるが、地域の移送に対するニーズは高く、担い手不足の中、どのように制度を維持していくかを京丹波町や他の移送サービス事業所とも連携し定期的に話し合いも行った。

〔利用実績〕

	月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	62.5	75	51	750	829	90.5%
回数(回)	203.2	260	164	2,438	2,869	85.0%
走行距離(km)	2012.8	2736.0	1552.4	24,153.3	26,161.3	92.3%

◆障害者居宅介護事業

利用ニーズに応え新規の利用にも応えて、利用者数が増加した。それに伴い時間数が前年度の約3割増となり、遠くは和知地区の依頼にも対応した。

3件については依頼があったが利用には至らなかった。

〔利用実績〕

	月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	8.4	9	7	101	89	113.5%
回数(回)	89.3	108	70	1,071	824	130.0%
時間数	83.33	93.75	61.0	1,000.0	782.0	127.9%

◆介護保険事業

①居宅介護支援

ケアマネージャー3名、常勤換算で2.5人での活動となり新規受け入れが24名、入所が3名、死亡が7名と全体では利用者数増加した。

他事業所のケアマネより人員不足による振替依頼があった2名も受け入れることが出来た。

医療との連携を重視し、病院地域連携室を通じ入院時の情報提供、退院時の情報収集に努めた。

利用者の高齢化や認知症の進行により入所希望者が増加しているが、要介護状態から介護予防に改善された例も見られた。

コロナ禍によりサービスの利用控えが1名あり以後サービス利用はなく家族介護になっている例もあった。

新型コロナウイルス感染予防としては訪問時間も短時間かつ玄関先での対応にする、サービス担当者会議の書面による開催など対策に努めた。

外部研修などはオンライン研修を活用し、地域ケア会議にも参加した。

		月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
件数	介護	61.3	69	58	735	674	103.4%
	予防	4.6	6	3	55	46	121.1%
	総合	0.6	0	1	7	1	6.7%

②訪問介護

利用人数は微増したが、回数が前年を下回る結果となった。訪問介護員不足の中職員の退職等により新規依頼に応えることが困難な状況が続いたが年度末に常勤職員1名を増員し、新規受け入れをしやすい体制を整えた。常勤職員においては外出支援サービスも兼務するため繁忙を極める時期もあった。

毎日型利用の利用者が入所・ショートステイ利用・死亡により活動回数が減少した。コロナ対策として職員、利用者の毎日の検温や健康チェックをおこない体調管理に努め、感染予防キットの作成、消毒液、マスク、手袋、エプロン、ユニフォームの配布を行った。各利用者のケース会議、などの集まりがコロナ禍の中開催しにくい状況にあり、十分に行うこ

とが出来なかった。

町内訪問事業所の集まる「ヘルパーの集い」も開催困難なため実施できなかった。

〔利用実績〕

		月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者 数(人)	介 護	43.8	48	40	525	519	101.2%
	総 合	3.0	3	3	36	46	78.3%
回数(回)	介 護	499.8	543	451	5,997	6,454	92.9%
	総 合	15.8	19	13	190	266	71.4%
時間数 (時間)	介 護	487.91	531.92	445.33	5,854.93	6,281.59	93.2%
	総 合	15.83	19.0	13.0	190.00	266.0	71.4%

③通所介護

今年度はたくさんの利用があり、施設入所・死亡などで11名の退所があったが新規の受け入れも11名となり、定員いっぱいの登録人数となる曜日がほとんどで、新規の受け入れや既存利用者の増回も難しい状況となった。

コロナウイルス感染症予防策として、消毒の徹底、こまめな換気、食事時の飛沫防止のためアクリル板使用、職員、利用者ともに検温、健康チェックの実施、空気清浄機の導入等を行いながら運営した。

マスク着用の徹底、外出・買い物の自粛等、利用者にも窮屈な対応をお願いしなければいけない場面も多々あった。

火災だけでなく自然災害にも対応した避難計画が求められる中、京都府・京丹波町の指導の下、自然災害にも対応した「避難確保計画」を策定した。

介助、清掃ボランティアを各1名受け入れた。

〔利用実績〕

		月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
開催回数(回)		25.8	27	24	309	310	99.7%
利用者 実数(人)	介 護	35.3	39	32	424	409	103.7%
	総 合	1.3	3	1	16	31	51.6%
延利用 者数(人)	介 護	319.7	357	273	3,836	3,503	109.5%
	総 合	3.4	11	2	41	117	35.0%
1回平均(人)		12.55	13.8	10.7	12.55	11.68	107.4%

◆その他

日本財団チャリティー自動販売機収益より5,220円を日本財団へ寄付した

以上